

半導体研究で交流室

TSMCと連携 台湾の大学

【台北共同】台湾の半導体研究をリードする国立陽明交通大学が、日本の大学や企業との連携を強めるため「台日交流推進室」を設置した。同大は半導体受託生産の世界最大手、台湾積体回路製造（TSMC）の本社がある台北近郊の新竹サイエンスパーク（科学園区）に隣接しており、地の利を生かして全面的な交流につなげたい考えた。

発足式が10月14日に開かれ、責任者の同室主任に就任した交通大の寒川誠二講座教授（東北大特任教授）は「世界最先端の半導体研究・教育のプログラムを提供する交通大学と日本の大学の橋渡しをしたい」と意気込みを見せ

た。

交通大はTSMCとも研究や教育で協力し、校内に「共同研究開発センター」を設置。台日交流推進室も同センターと同じ建物に入った。

寒川氏は、台湾の半導体産業の発展について、大学からサイエンスパークへの高度な人材の供給や、産学官の協力によるスタートアップ企業の支援があると分析。半導体産業の再興を目指す日本も学ぶべきだと強調し、日本企業が台湾の半導体産業のサプライチェ

ーン（供給網）に入ることも後押ししたいと述べた。

交通大は既に北海道大や東北大、九州大、熊本大と半導体分野の研究・教育などで連携。推進室の発足を受け、日本の学生や研究者、企業のエンジニアを積極的に受け入れる構えだ。

寒川氏自身も、半導体の微細加工技術の世界的な研究者で、約2年前に東北大から交通大に移籍。日本の大学や企業と半導体製造装置の共同開発に取り組んでいる。

日本の大学・企業と関係強化